

霧の朝

ツルゲーネフ作詞 アバザ作曲

- 霧の朝、灰白色の朝
ふと思い出す ありし日々
野は悲しげに 雪に覆われ
思い出す かなた忘れし人々 (リフレイン)
- 思い出す あまたの熱いささやき
最初の出会い 最後の逢瀬
燃えるまなざし はにかむまなざし
静かな声のいとしい響き (リフレイン)
- 思い出す 別れ際の不思議な微笑み
カタコト揺れる車輪の音に耳を傾け
めぐりくる はるかふるさとの日々
思いに沈み 広い空を眺めながら (リフレイン)

菊は散っても

ハルト作曲

- ふたりが出会ったこの庭に
その時わたしの胸に咲いたのが
あなたの好きな菊の花が咲いた
やさしくまばゆい愛の花

ずっと前に散ってしまった
でも愛は変わらずに咲いている
庭の菊の花
わたしの病んだ胸のうちで

ずっと前に散ってしまった
庭の菊の花
- ふたりの庭は荒れ果て
苦しみ抜いたわたしは
ひとり さまよい歩く
しおれた菊の花の前で

ずっと前に散ってしまった
でも愛は変わらずに咲いている
庭の菊の花
わたしの病んだ胸のうちで

ずっと前に散ってしまった
庭の菊の花

何度も聞かないでくれ！

作曲者不明 ヴィノグラードワ編曲

- 何回も聞かないでくれ
なぜ君を愛したのかと
なぜ君を見つめているのかと
なぜ君を愛したのかと
- 君の吸い込まれるような
生涯君だけを愛するだろう
うつくしい瞳に心を沈め
生涯君だけを愛するだろう
- 恐ろしい苦しみだと分かっても
しかし恋しい君に出会えたのは
運命にちがいない
しかし恋しい君に出会えたのは
運命にちがいない

君の面影が見える

アリヤビエフ作曲

- 君の面影が見える
そして花畑に芳香が漂う頃
夜明けの風が まどろむ自然から深い闇を吹き払い
君の面影が見える
- 君の面影が見える
銀色の小川に薔薇が顔をのぞかせる頃
黄金のまつげの空色の瞳から 涙が流れ
君の面影が見える
- 君の面影が見える
曙光により黄金に輝く水のひとしづくごとに
万有の王である太陽だけが 厳かに蒼穹を疾走する
君の面影が見える
- 君の面影が見える
私を甘いまどろみに沈める頃
一日が終わり 青ざめた月が夜の闇に浮かび
君の面影が見える

そばにいてくれ！

ボーギン作詞 ズーボフ作曲

- 行かないでくれ そばにいて ここはこんなに楽しくこんなに愉快だ！
君の唇や瞳、顔にキスの雨をふらせるよ！(リフレイン)
そばにいて そばにいて！
- 行かないでくれ そばにいて こんなにも前から君を愛しているよ
君を燃えるような愛撫で熱くするよ 君が疲れるほどに (リフレイン)
- 行かないでくれ そばにいて 僕の胸で情熱が燃えあがる
愛の歡喜が僕たちを待っている 行かないでくれ！ 行かないでくれ！ (リフレイン)

ジン ジン ジン

ユーリエフ作詞作曲

月明かりのもと 雪は銀色に輝き
「ジン ジン ジン ジン ジン！」
この音色 この響きは

かなたの道をトロイカが疾駆する
鈴の音が鳴り響く
わたしに多くを語りかける！

月明かりのもと 思い出すのは
君と出会った 若き君の声は
「ジン ジン ジン ジン ジン！」

早春の邂逅
鈴の音のように鳴り響いた
愛を甘く歌った

思い出すのは 人いきれの騒がしいホール
「ジン ジン ジン ジン ジン！」
この音色 この響きは

白いベールをまとった乙女の面差し
グラスの音が響き渡る
わたしに多くを語りかける！

枝折戸

オバーホフ作詞作曲

1 蒼い夜が訪れたなら
露がミザクラの銀色の霜を

天空の星がまたたいたなら
真珠のように輝かせたなら

(リフレイン)

そっと 枝折戸を開けて
忘れないで 濃い色のカーブと

影のように 静かな庭に出ておいで
顔をレースで覆うことを

2 そこは 枝が鬱蒼と絡み合う
あずまやの敷居の上で

あずまやで君を待とう
愛らしい君の唇からレースを取ろう

(リフレイン)

そっと 枝折戸を開けて
忘れないで 濃い色のカーブと

影のように 静かな庭に出ておいで
顔をレースで覆うことを

長い道を(悲しき天使)

ポドレフスキヤ作詞 フォミン作曲

1 小鈴鳴るトロイカに 乗っていた
遠くに 灯火が 瞬いている
ああ 今あなたを追って 進むのであれば
心は憂いから解き放たれたらうに！

(リフレイン)

長い道のりを 月明かりの夜に
遠くで鳴り響いている あの歌とともに
夜ごとわたしを苦しめた 昔の七弦ギターの歌とともに！

2 そう 思い出せば わたしたちは 意味もなく歌っていた
いたずらに 夜ごと心を燃えたせながら
もしも 過去と決別できたならなら
あの夜も 遠ざかっていったらう！

(リフレイン)

長い道のりを 月明かりの夜に
遠くで鳴り響いている あの歌とともに
夜ごとわたしを苦しめた 昔の七弦ギターの歌とともに！

3 はるか故郷へ あらたな旅路を進む
これから わたしたちは この道を進む定め！
小鈴鳴るトロイカに 乗っていた
そう 今やすっかり 遠くに来てしまったが！

(リフレイン)

長い道のりを 月明かりの夜に
遠くで鳴り響いている あの歌とともに
夜ごとわたしを苦しめた 昔の七弦ギターの歌とともに！